

読売歌壇

三十年前五十数軒ありし村二十戸に減りて白梅
 和歌山県 助野真美子
 【評】こつこつ集落がいま日本の至るところにある。三十年で半数以下に減少した村里。それでも春になれば白梅が咲く。三十年前と同じように咲く。今年の梅はこつこつ美しい。亡き夫のもらひしトロフィー部屋すみに整理できぬまま三回忌くる
 新庄市 田宮 良子
 【評】なんのトロフィーだろうか。ゴルフの大会か。こつこつものを夫亡きあとどうするかは、本当に悩む。なんの名案も浮かばず、三回忌になってしまった。呆然とするばかり。ちびちゃんが座禅組み居る道場に大山桜今が満開
 平塚市 村杉 晴次
 【評】ちびちゃんは幼稚園児？ そんなこともが一心に座禅を組む。なんと健気な。道場の庭には大山桜が満開だ。
 神戸市 西 和代
 イヌフケリ共に愛でしはいつの日か君の訃報は風のためよに
 我孫子市 湯沢 遥子
 平凡なお見合い結婚だったけど墓前に来てしまふ十五年が過ぐ
 福山市 坊坂 有子
 瀬戸内の離島を出てゆく紙テープ花の舞う日にまた去るひと
 東京都 風ノ桂馬
 受付にマイナカードの顔認証 自信なさげな老婆が映る
 奥州市 佐藤 茂美
 初めての駅に降り立ち空を見たこは東京きよは歌会
 鳴門市 楠井 花乃
 五十二年働いてきたご褒美にシチリア島の安ワインを買う
 横浜市 森 秀人



碧空に製紙会社の白煙のまっすよる りくりゅうは金
 新居浜市 矢野 浩子
 【評】ミラノ・コルティナ五輪のフィギュアスケートで金メダルをとった「りくりゅう」ペア。その晴れやかさが、上句の情景と重なり合う。「製紙会社の白煙」が印象鮮明。キッチンに異邦人めくナンプラー料理はしないと言った君の
 広島市 宇井モナミ
 【評】ナンプラーはタイ料理に欠かせない調味料。料理未経験者が買うとは思えない。ナンプラーを置いたのは誰なのか、疑惑がふくらむ。「異邦人めく」が言い得ている。
 春風を妻がささげる手のなかでマツチをすりて線香をつける
 東京都 大室 英敏
 【評】墓参の折のしづさだろうか。マツチをする作者の手元を妻がのひらで囲む。線香を見つめる二人の呼吸も伝わる歌である。
 寒暖の厚き壁越え春は来る早咲きの花遅咲きの花
 横浜市 岡 明美
 みぞれ降る大宰府駅に降りたてて初めての歌会に気を引きしめる
 福岡市 近延のぶ子
 時短など知らぬ顔して亀二匹岩に動かず狼沢の池
 横浜市 杉山 太郎
 夕暮れに幼き日々を懐かしむランプ暮らしの山の軒家
 松江市 三方 純子
 山菜の売り場にみどり揃ひたり深緑から黄緑までの
 南魚沼市 木村 圭
 山茶花の散り敷く道を駆ける児の弾める声があくに抜けゆく
 横浜市 弘田 光子
 桜餅くさもち緑茶ウーロン茶やよい生まれのよわいかたらん
 東京都 鈴木 淑枝

放たれしあまたの鳩の形してハクモクレンの花開きたり
 下田市 後藤 瑞義
 【評】いっせいに勢いよく花を咲かせているハクモクレンを、とらえた鳩の比喩がみごと。初句の動詞が、全体を生きた生きとしめたものにしている。
 あの人好んで食べていたグミの新作味を手にとってみる
 東京都 中山 里奈
 【評】「あの人」とは、今はつながないのだらう。けれど、もしかしたらどこかで、同じものを手にしているかも……そんな淡い思いが切なく伝わってくる。
 約束を果たせなかった夜にさえずる呼ばは必ず来るエレベーター
 横浜市 富尾 大地
 【評】自分とは違つて、律儀に動くエレベーター。そんな空気に思つたことこそ、自分のふがいなさを悔やむ気持ちだが、よく表れている。
 大福は中福になり小福になって身を切り私を満たす
 横浜市 友常 甘酢
 見つめるや見まもるだけが愛じゃない見のがしてやることだつて愛
 上尾市 関根 裕治
 ぶらんこを大きく揺らし空間が腹式呼吸をしてる三月
 高島市 宮園佳代美
 採れたての春のキャベツは明るくて両手で持てるサイズの地球
 宇部市 常田 瑛子
 一番になれぬこと増え少年が試みするカフエマキアート
 フランス 小仲 翠太
 初LIVE観客席を埋め尽くす透明人間御一行様
 静岡市 青山 卓哉
 無理と無茶はまるでべりべりとのようびっくりするほどとても仲良し
 東久留米市 中里 正樹

神様のノイズキャンセロンとなり人間どもは滅びに滅ぶ
 松戸市 藤原 毛布
 【評】外の雑音をきれいに消してくれる、イヤホンのノイズキャンセロン。そんな風になつたら人類も一瞬でキャンセロンされるかも。神になつて人間とは煩わしいノイズなのだろうか。わかいころは太陽だったことなどを話すとりの赤色巨星
 京都市 袴田 朱夏
 【評】若い頃の自慢話ばかりしてくる人の嘘えと読みました。そういう人に限つて「巨星」のように態度が大きい。「ひとり」の一語に、その人が周囲から煙たがられて浮いている様子を感じました。皮肉いっばいの一首です。
 ドローン攻撃 アニメのやうな戦でも人は死にゆく遠き画面で
 前橋市 西村 晃
 【評】科学技術の進化が戦争の様相を変えてゆく。人の命が現実から遠ざかってゆく。
 生き物のほしくれであらうれしさよ汝は杉蒼われば銭苔
 東金市 山本 寒苦
 ネットフリの中継は見ず地上波のニュース見しのみWBC
 静岡市 安藤 勝志
 わが歌を「これはいいね」と言ふ娘「老化防止に」とつけ加へけり
 枚方市 鍵山奈美江
 瘦身の身を寄せ合ひて耐へてゐる激しき風の中の自転車
 広島市 熊谷 純
 花筏想い放てば紺碧の海に沈みてさざ波となる
 東根市 石川 碧泉
 地下鉄を降りて煙草に火をつける嫌いな父を好きになりたい
 高松市 長船給里子
 病むゆゑに廃れ荒れたる我が庭も海棠芽吹き春の来るらし
 前橋市 丸山 裕子

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌(俳)壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はさくらえび